

30年余 4億筆の先に要求の実現があった!

「ゆきとどいた教育を求める香川県署名」7567筆

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ
http://kakyoso.com/



署名を提出する太田会長と県教委総務課

1989年に始まったこの署名活動は、「子どもたちにゆきとどいた教育を」と願う保護者・国民・教職員、子どもたちの思いが詰まっています。

香川県でも、「香川の教育にもゆきとどいた教育を」と願う県内の団体で「教育をよくする県民会議」が発足し、署名活動や各市町長

2021年2月4日、香教組が事務局を務める「香川の教育をよくする県民会議（会長 太田展生 おおた小児科・アレルギー科クリニック院長）」は、県教委総務課に7567筆の署名を提出しました。

県教委は、「これらの要望は県教委としても認識している。みなさんの声を重く受け止め、できることを進めていきたい」と回答しました。

2020年度は、コロナ禍で集めにくかったのですが、多くの方が快く協力してくださいました。

や教育長と懇談・要請などを行ってきました。その過程で、1クラス当たりの児童生徒数が、50人↓45人↓40人↓35人と実現してきました。国民・県民の声が署名を通して実現したので、2020年度も、幼保・小中高・特別支援教育とそれぞれの課題解決に向けて署名を提出しました。

各団体からは、それぞれの立場での緊急の課題をていねいの説明し、議会へ働きかけるとともに、県教委としては着手するよう要望しました。



課題について説明する私教連（手前）と県労連（奥）



西原義務教育課課長補佐と香教組石川委員長

2 「1年単位の「変形労働時間制」を

1 教職員として安心して暮らすことができるとともに、すべての教職員の待遇改善をはかってください。

県教委は、「毎年こうして教職員の声が届いている。みなさんの思いを重く受け止め、できることは進めていきたい」と回答しました。

ご協力いただきました教職員のみならず、ありがとうございました。来年度もよろしくお願ひします。

3 少人数学級を早期に充実・発展させてください。小中全ての学年で35人以下学級を実現してください。

4 働き方改革プランを着実に進め、長時間勤務・多忙化を解消するよう具体的な措置をとってください。

5 特別支援学校や特別支援学級の条件整備を具体的にすすめてください。

教諭、再任用教諭、講師、それぞれの立場から、香川の教育や教職員の勤務条件の整備のために具体的に要求しました。

2021年2月19日、香教組は、賃金改善や多忙化解消のために、教職員の声919筆を県教委に提出しました。

香教組署名919筆を県教委へ提出

みなさんの声は重く受け止めたい。(県教委)

「署名はなぜするの？」こんな疑問を、特に若い教職員から聞く。私たちの国は、間接的な民主主義の国だ▼私たちが選んだ議員が、国民や県民、市民の声を受けて、政治を行っていく。議員がすべての声を把握することは不可能なので、「議員に興味をもってもらう」ことが必要となってくる▼また、官僚や教育委員会事務局など、行政側からも、議員に働きかけるといふ方法もある▼いずれにせよ、現場で何が起こり、どのようなことが課題なのかを具体的に伝えなければならぬ。議

署名は意思表示

員会館や役所においては、現場は見えないからだ。日本独特の考え方に「お上が何とかしてくれる」というのがある▼古代から歴史が動いたときは、誰かがことを起こしている。決して、黙って進んだわけではない▼そこで、私たちが具体的に声を上げる方法の一つが「組合加入」だ。組合に入っ

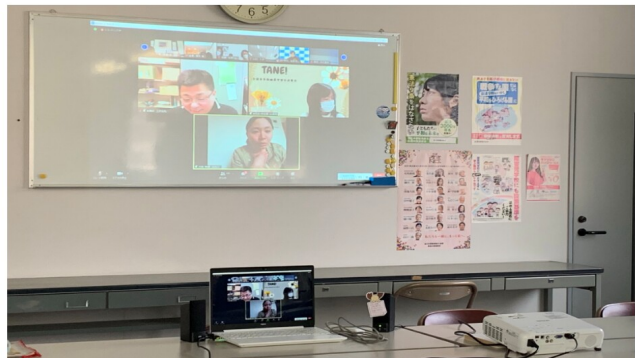
もう一つが「署名」これは誰でもできる▼最近では、ネット署名もあり、それが要求の実現につながり始めた。署名にご協力を。いや、組合に集い、ともに声をあげよう!



学びは力

全国青年教職員学習交流集会 TANE

子どもたちを大切にしたい



全体講演は、特別支援学校

コロナ禍を通じて考えた 学校の役割・組合の役割

2020年2月7日、12回目の全国青年教職員学習交流集会「TANE!」がオンラインで開催されました。全国から207人が参加し、香教組でも、サテライト会場を作り、青年教職員が参加しました。

コロナ禍の混乱に乗じて「子どものため」を装った施策が降ってくる中で、今、本当に子どもを大事にするとはどういうことだろうか？子どもたちをどう理解したらいいのだろうか？と参加者と考え合いました。

子どもを理解するとは めどすべき教育とは

の元教員で、現在、鳥取大学教授の三木裕和さんの、子ども理解や学校が本来もっている価値についてのお話でした。

養護学校(現特別支援学校)の教員になって数年経った時「障害の重い子の医療的ニーズはわかるが、その子を人格のある存在として見ているだろうか」と限界を感じていたこと、同僚が重度の子どもとかかわる姿を見て「言葉のやりとりが教育ではない。一番大事なのはその子の気持ちが変わること」と学んだと語りました。そうした経験から、子どもにとって「怖い」教師とは、「元気で」「善意にあふれ」「子どもの気持ちが変わらない」の3つがそろった教師ではないか、と問いかけました。

後半は、コロナのもとで教育が大きな岐路に立たされている中、経済界の求める教育と対峙して、私たちがすすめるべき教育の姿について話しました。

質疑応答では、忙しい現場でどのように子どもを理解するか、保護者や同僚とどう関係をつくるかなどの質問がありました。

三木さんは、子どもたちが「最後」まで聞いてもらったという経験の積み重ねが大切なこと、教育はやってみて反応を見ていく中で試されること、雑談を大事にしながら関係を育んでいくことの大切さを語りました。

参加者からは「子どもが感じていることを受け止めることを忘れがちだなと感じた」「明日から今まで以上に『共感』を大切に生徒と接していきたい」などの感想が寄せられました。

仲間の実践を学び 子どもたちを 取り巻く社会を学ぶ

同世代の実践を学び合う3つの分科会と、講師の話聞く4つの講座がありました。

分科会A「学級づくり」

トラブルが続く子どもたちの声をじっくり聞き、寄り添ってきた小4の実践をもとに語り合いました。

分科会B「行事づくり」

競争ではない行事の価値を見つめ、コロナ禍で中止が相次いだ行事の価値について語り合いました。

分科会C「授業づくり」

ICTがトップダウンで入ってきた現状、生徒たちの様子をレポートし、各地の状況を語り合いました。

講座1「コロナ禍を生きる子どもたち」

子ども食堂の話から学校では見えない子どもたちの姿を学び合いました。

講座2「沖縄の今はどうしてできたの？」

沖縄の苦しみ、その背景に何があるのか、沖縄戦から戦後までを振り返り、今を見つめました。

講座3「気になる子が輝く学校」

「子どもの悲しみをとらえる」「科学的な子ども理解」を子どもの声、エピソードを交えて学びました。

講座4「変えよう！働き方・ハラスメントなくすには？」

解決の道はどこに？ ILO条約の背景や国際基準から遅れた日本の現状を学び、職場から何ができるか考え合いました。

香教組からは、毎年、この「TANE」に複数名参加してきました。派遣の旅費や参加者の家庭の都合などで、参加したくても参加できない方もいる中で、サテライト会場や自宅でオンラインで参加・学習できる機会があることはうれしいとの声がありました。

また、「全国の教職員とつながることで、香川県の現場の状況の良さやおかしさがわかるので、定期的に交流したい」という参加者もいました。

学校現場では、出張旅費を削られ、県外出張はおろか、県内の出張も人数が限られています。また、官制研修では、本当に学びたいことは、なかなか学べません。

子どもたちに「主体的・対話的な深い学び」を求めるためには、まず、教職員が学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

組合には、本当の意味での学びがあります。

2021年度 障害児教育部 (特別支援教育)が、 香教組に誕生します！

現場では、特別支援教育が重要な課題になってきています。これまで、香教組では、障害児学校支部を中心に運動を進めてきました。

今、特別支援学校・特別支援学級と連携し、特別支援教育を進めることが必要です。2017年度から、学習会を行ってきましたが、今後は、学習と条件整備の運動とを共に行っていきたいと思っています。

全教共済

春募集が始まっています。

結婚・出産・お悔やみなど近況に変化はありませんか？

総合共済は、各種の給付があります。

お心当たりのある方は、香川教済(香教組会館内087-867-4797)まで、ご連絡ください。

